

# 令和元年度 学び舎ひまわり 第2講 開催報告

日 時：令和元年9月29日（日） 10時30分 ～ 16時15分

会 場：野庭住宅第二集会所・野庭地域ケアプラザ

受講生：28名

## プログラム内容

様々なジャンルの取組を5つ取り上げ、現地見学や当事者による講義を受けました。その後、グループ別に意見交換を行いました。

### 事例① 夏祭りへの子どもの協力【現地見学】 紹介者：鳥越 文子さん（野庭住宅第二自治会）

自治会のお祭りで、地域の子どもの「子ども店長」として屋台を手伝っています。自分が育った地域をふるさととして感じてもらいたい、という思いがあり、夏祭り以外にも子どもを対象とした取組を多く行っています。子ども会存続の危機を自治会全体で支えたことで、より負担感なく、みんなで楽しく活動することができています。



#### 【受講生の気づき】

- ・あいさつをしない子どももいるが、継続することであいさつしてくれるようになるのだろう。
- ・子どもに協力してもらうことで、その親も活動に参加するきっかけができる。
- ・子ども会を自治会の中の専門部にすることで、自治会の活動がスムーズになることを知った。



## 事例② 防災訓練を兼ねたミニ運動会 紹介者：鈴木 勝彦さん（大谷町内会）



「子どもに、楽しみながら防災について興味をもってもらうにはどうしたら良いか」を考え、運動会と合わせた防災啓発を実施しています。住民同士が顔を合わせて交流する良い機会にもなっています。



### 【受講生の気づき】

- ・参加して楽しい内容が、結果、防災訓練になっているというのはすごい。イベントとして、いかに楽しく防災訓練をやれるかを考えられると良い。
- ・テントを立てて、そこでバーベキューをやるというのも良いかもしれない。



## 事例③ マップを活用した見守り 紹介者：若林 諭さん（芹が谷町内会）



誰と誰がつながっているのか、が分かることが大事ということで、住民支えあいマップを活用してつながりを見える化しています。作成する過程で課題が見え、具体的活動を展開しています。



### 【受講生の気づき】

- ・マップを作ることから、見守り体制を作ることができそう。
- ・まずは、やってみることが大切だろう。
- ・やっている取組を発信することが大切になるように思う。



事例④ あいさつ運動 紹介者：岡部 豊さん（日下地区）



子どもも参加して、日下の地域について話をする“日下未来カフェ”で「あいさついっぱい  
の地域になると良いな」という思いから始まった活動。様々なグッズを作製したりイベントを  
開催したりしながら、自然と住民同士のつながりができ、ゆるやかな見守りへとつながってい  
ます。



あいさつ運動の様子

あいさつを通して地域みんなが繋がります



グループワーク

【受講生の気づき】

- ・あいさつは、とても大切なこと。それを次世代にもつなげていきたい。
- ・あいさつは言葉だけでなく、態度や笑顔を心がけていきたい。
- ・スマホでの会話となっている子どももいる。おせっかいだがあいさつを通して、自分を心配してくれる人がいると気づいてもらえると良い。



事例⑤ 若手人材の活用 紹介者：佐藤 正市さん、野澤 晃司さん（吉原南町内会）



「自分の町内会を知って好きになってもらいたい」という気持ちを大切に、日頃  
からの声掛けにより、若い世代の協力者が多い町内会です。一人が責任を負うの  
ではなく、無理なく楽しむ気持ちをもちながら町内会活動に取り組んでいます。



町内会活動の様子

日頃からのオープンな関係と、  
負担の無い活動が大切です



グループワーク

【受講生の気づき】

- ・顔が見えて活動できることは、本当に素晴らしいと思う。
- ・町内会でやっている活動を知ってもらうために SNS の活用がある。一方で、SNS を利用できない人への対応も考えないといけない。
- ・声かけが大切。反応がないこともあるが、まずは声をかけてそこからつながる。



## 講師 内海氏からのコメント



5つの事例の共通したテーマとしては、人と人の顔の見える関係をどう作るか、ということだと感じました。

事例①は、世代をつなぐノウハウが具体的な場面を通して作り上げられています。親に呼びかけても子どもの参加につながらないことがあります。直接子どもにアプローチすることで子どもに出てきてもらう機会を増やし、顔の見える関係をつくることが重要です。

事例②のように、複数の活動を合わせて行うことが最近が増えてきています。様々な行事を一度に行うことで、多世代の参加が見込めます。ゲーム感覚で子どもが楽しめるなど、それぞれの世代が楽しめることがポイントです。

事例③は、孤立を無くす、ということが原点の取組です。マップの中につながりを見える化することは、具体的であるので有効な方法です。個人情報の手立てを検討しながら実施することが大切です。

事例④は、あいさつを交わしやすい環境をどう作るか、ということを中心に話し合い、具体的な活動として取り組んでいます。地域でみんながつながるためにあいさつがどう有効に働くかが大切になります。

事例⑤は、働き盛りも町内会の運営に参画できる工夫をしている取組です。SNSを活用し、いつでも相談や報告ができる環境を作っています。働き盛りの若い世代も負担感なく役員を受けることができており、日頃の関係づくりというアナログと、SNSというデジタルの取り合わせがおもしろい事例です。

## 学びのまとめ 集計結果

回答数 27件 / 回収率 96%

満足	やや満足	やや不満	不満	その他
19	7	0	0	1
70%	26%	0%	0%	4%

## 【受講生の主な意見】

- ・他の地区で取り組んでいる事例はなかなか知ることができないので、とても参考になった。グループワークでは、問題点と解決策等で色々な意見が出たので、自分たちの活動に取り込めるようにしたい。
- ・取組には、コミュニケーションを図る場があり、楽しいと感じる内容であることが大切。
- ・「子どもや子ども会を大切にすることによって多くの住民を引き付けることが可能になると感じた。
- ・住民支えあいマップはぜひ自治会でやってもらいたい。協力してもらおうノウハウも参考になった。